

修士論文（要旨）  
2021年1月

非経口摂取の高齢者の口腔内状況改善に向けたケアの検討

指導 鈴木 隆雄 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
219J6013  
李 明玉

Master's Thesis(Abstract)  
January 2021

Comparison of improvement in oral condition between treatment of sodium bicarbonate  
water and of cleaning gel among the hospitalized older persons

Mingyu LI  
219J6013  
Master's Program in Gerontology  
Graduate School of Gerontology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Takao Suzuki

## 目次

第1章	はじめに .....	1
第2章	対象と方法 .....	1
第3章	統計解析 .....	1
第4章	倫理の配慮 .....	1
第5章	結果 .....	1
第6章	考察 .....	2

## 参考文献

## 第1章 はじめに

入院・入所の高齢患者では様々な原因により意識レベルの低下をきたしている場合が多く、さらにそのような患者では経口摂取の困難な状態であることが少なくない。多くの入院高齢患者において口腔内乾燥や口臭などの口腔衛生に関連する問題のある者が多く見られ、通常の口腔ケア実施は難しい。さらに嚥下機能も低下しているため、一般的な水洗によるケアは十分な注意が必要である。本研究では口腔内の評価及び介入のための二群（2%重曹水使用の群と口腔洗浄ジェル（ヒアルロン酸 Na 配合）使用の群）を設定し、二群間における清浄度を比較し、今後、意識レベルの低下した高齢入院・入所患者の安全な口腔ケアの方法の確立に向けた基礎的研究を実施した。

## 第2章 対象と方法

対象者は2020年9月29日から2020年11月29日までの2ヶ月間に、当院の障害者施設病棟に入院している65歳以上の高齢者39例（男性21例、女性18例）とした。対象者の病室を偶数の部屋（合計20例）と奇数の部屋（合計19例）を二群に割り付けた（各々A群、B群とした）。A群には2%重曹水で口腔ケア実施し、B群では口腔洗浄ジェル（「お口を洗うジェル」）で口腔ケア実施した。両群ともに本研究担当者と病棟内の口腔衛生士より、2回/日口腔ケアを施行した。口腔清浄度の評価については実施前後に口腔内評価スケール（OHAT-J）の8項目の各項目の得点と総得点より総合的評価し、効果を検討した。

## 第3章 統計解析

二群対象者属性については対応のあるt-検定とカイ二乗検定を行って二群間統計学的に有意の差がないことを確認したうえで、OHAT-J点数前後の変化については、各項目の得点と総得点はMann-WhitneyのU検定を用いて比較した。平均値の差の検定についてはWilcoxon符号付順位検定を用いて比較した。さらに、介入後の二群間における介入方法（二種類）と時間（介入前後）における交互作用については、一般線型モデル（反復測定）により確認した。統計解析はIBM社製SPSS Statistics Version 25.0を使用して5%を有意水準とした。

## 第4章 倫理の配慮

本研究のすべての担当者は、「ヘルシンキ宣言」および「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（分科学省・厚生労働省）」と、桜美林大学研究活動倫理委員会（承諾番号：20007）の承諾を得て実施した。全ての調査対象患者には本研究の趣旨と目的を説明し、文書により同意を得た。

## 第5章 結果

対象者属性については、年齢、性別、身長、体重、BMI(Body Mass Index)と経口摂取の種類はいずれも統計学的に有意の差がなかったことを判明した。介入後二群間の比較(表4)について、2%重曹水使用群の総得点は $2.95 \pm 2.24$ 点、お口を洗うジェル使用群の総得点は $2.16 \pm 1.80$ 点であり、統計

学的に有意の差が認めなかったが、8項目の中に舌の点数にて、2%重曹水使用群は $0.75 \pm 0.55$ 点、お口を洗うジェル使用群は $0.21 \pm 0.42$ 点であり、統計学的に有意な改善が認められた。2%重曹水使用群の群内の変化(表5)についての分析では、口唇、歯肉粘膜、唾液、口腔清掃、歯痛、5項目と合計の平均点数はいずれも下降になり、統計学的に有意な改善が認められた。お口を洗うジェル使用群の群内の変化(表6)についての分析では、口唇、舌、歯肉粘膜、唾液、口腔清掃、歯痛、6項目と合計の平均点数は全て下降になり、統計学的に有意な改善が認められた。二群介入前後 OHAT-J 各項目の得点と総得点の差(表7)の分析については、舌の点数で、2%重曹水使用群は $0.00 \pm 0.32$ 点、お口を洗うジェル使用群は $0.42 \pm 0.51$ 点であり、舌の掃除に対して、お口を洗うジェルは2%重曹水より有効であることを示唆された。

## 第6章 考察

本研究の調査期間である2ヶ月間に2%重曹水とお口を洗うジェルを使用してOHAT-Jの総得点は、いずれも下降になり、統計学的に有意の改善が認められたが、舌の点数に対して、2%重曹水使用群には効果が見られなかった。お口を洗うジェル使用群には、舌の清浄度は顕著に上昇した。お口を洗うジェルを高齢者に長期応用して口腔内の状況が改善できると考える。

参考文献：

- 1) 森谷和歌子、槇麻子、加藤百合子、大江明美. 非経口摂取患者への 2%重曹水による口腔ケアの実施及び評価. 山形県国保地域医療学会 山形県国民健康保険団体連合会診療施設医師部会, 山形県国民健康保険団体連合会編 2015 ; 60 : 30-34.
- 2) 横林康子、佐藤美紀、浅井玲子、横井博子. 口腔内乾燥のある高齢者に保湿ジェルを使用した口腔ケアの効果. 第 39 回 成人看護Ⅱ. 2008 ; 33 : 98-100.
- 3) 田村宗明、大屋学、落合邦康. 新規口腔ケア剤による高齢者の口腔内カンジダ数減少効果. 無菌生物 2014 ; 44(2), 124-128.
- 4) 角保徳. 「お口を洗うジェル」で水を使わない口腔ケア. 日本歯科評論(通判第 875 号). 2015 ; 75 : 81~84.
- 5) 守谷恵未、松山美和、犬飼順子、道脇幸博、岩渕博史、小笠原正、松尾浩一郎、角保徳. 口腔ケア時の誤嚥予防の試みー口腔ケア用ジェルの新規開発ー. 日本老年医学会雑誌 2016;53(4), 347-353.
- 6) Chalmers, J. M., King, P. L, et al. :The oral health assessment tool-Validity and reliability. Aust. Dent. J., 50:191-199, 2005
- 7) 松尾浩一郎、中川量晴. 口腔アセスメントシート Oral Health Assessment Tool 日本語版 (OHAT-J) の作成と信頼性, 妥当性の検討. 日本障害者歯科学会雑誌. 2016 ; 37(1), 1-7.